

## 平成26年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

外山 研究室	氏 名	東 雲 智 史
卒業研究題目	法令文の可読性に関する定量的分析	
<p>法令とは、国会が定める法律と国の行政機関が定める命令を合わせたものである。そこで規定されているものの多くは、国民の権利や義務に関する事柄であり、その内容を知ることが日常生活を送る上でとても重要になる。しかし一方で、法令文は一般に読みにくく、その内容を理解することは容易ではない。そのため、法令文の可読性を改善することを目的とした研究が行われてきた。法令文が読みやすくなれば、専門家ほどの知識がなくとも、その中身を把握することができ、また法令に対する忌避感が薄れると考えられる。しかし、それらの先行研究において、法令文の可読性をどの程度改善できたかを定量的に評価する方法は確立されていない。なぜなら、一般の文の難易度を測る指標は既にいくつが存在するものの、それらの指標が法令文に対して十分に機能するか否かは明らかではないからである。</p> <p>そこで本研究では、法令文の可読性に対する定量的な評価法を構築することを目的として、法令文の可読性を分析する。具体的には、一般の文の難易度を測る指標として用いられてきたもののうち、(1) 1文あたりの文字数と、(2) 係り受けの複雑さの2つの指標を取り上げ、各指標と法令文の可読性との関係を明らかにする。</p> <p>分析においては、各指標が法令文の可読性を示しているという仮説を立て、1つの指標について互いに異なる値を持つ2つの法令文に対して、可読性の優劣に関する主観的評価を実施し、その仮説の妥当性を検証した。具体的には、まず、対象とする法令文を各指標に基づき5段階のカテゴリに分類した。ここで、各カテゴリは、可読性に関する難易度を順に表しているとした。次に、2つの隣接するカテゴリから無作為に1文ずつ抽出し、可読性の優劣を手により判定した。その後、主観的評価と指標による判定が一致したものの割合を集計した。分析データとして、人手により係り受け解析が行われた法令414本を用いた。分析の対象を人手で解析された法令文に限った理由は、法令文に対する自動係り受け解析はまだ十分な精度とは言えないため、係り受けの複雑さの指標を算出する際に、解析誤りの影響を排除するためである。</p> <p>1文あたりの文字数を指標とした分析では、各カテゴリに属する文の文字数がそれぞれ、1~40、41~80、81~120、121~160、161~となるように5分割し、順に難易度1から5を持つカテゴリとした。主観的評価により160回の比較を行った結果、そのうちの82.5%が指標による判定と一致した。これにより、法令文の難易度を示す指標として、1文あたりの文字数を利用できる可能性を確認した。</p> <p>係り受けの複雑さに関する分析では、人間の係り受け解析過程を模したモデルを基に作成された指標を用いた。これは先行研究で提案されたもので、人間の短期記憶容量をスタックとして表現し、その領域の最大使用量を値として算出するものである。各カテゴリに属する文における係り受けの複雑さの値がそれぞれ1~2、3~4、5~6、7~8、9~となるように5分割し、順に難易度1から5を持つカテゴリとした。主観的評価により160回の比較を行った結果、そのうちの75.0%が指標による判定と一致した。これにより、法令文の難易度を示す指標として、係り受けの複雑さを利用できる可能性を確認した。</p>		